



本年の結実も確定しました。結実量は概ね確保されている状況ですが、品種毎の着果量や樹勢等を総合的に判断し、仕上げ摘果作業を進めてください。

## ◆ 南水の仕上げ摘果について

### ① 時期

- 満開後 45 日まで（6 月 15～20 日頃まで）

### (2) 着果量（バランスよく配置する）

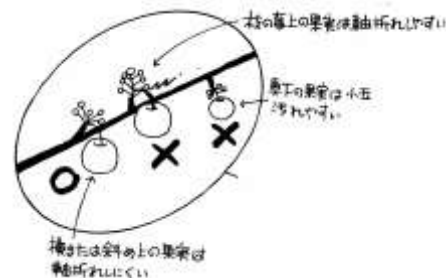
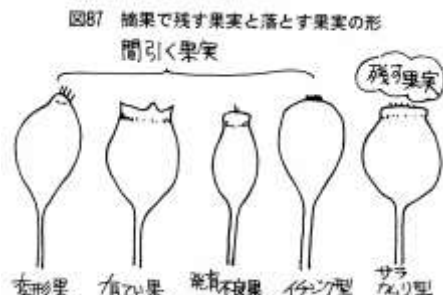
- **側枝（結果枝）1m 当り 5～6 個（20cm に 1 果を目安）**
- 側枝に厚みがある場合（葉数が多い枝）は 6～7 個

### ② 方法

- 軸を回し果形を見る。（条溝果・変形果・サビ果・小玉果の確認）
- 軸の長さ・太さを見る。（短いと軸折れや袋掛けが困難）
- 有てい果はあまり気にしないが、なるべく落とす。

### ③ 注意点

- 真上向きはダメ（軸折れ、日焼け、枝ずれ、収穫前落果）⇒ 横向きまたは斜め横向きがベスト
- 1 年枝は着果させない ⇒ 条溝果や食味不良になりやすい
- 主枝（亜主枝）の最先端は着果させない ⇒ 特に永久樹
- 有袋は袋掛けの際に確定摘果（樹上選果）を行う。
- 無袋は 7 月上旬に修正摘果を行い、7 月下旬に確定摘果（樹上選果）を実施する。その後も引き続き不良果実を落とす。
- 無着葉果そのの果実出来るだけ落す⇒肥大不良となる



## ◆ 夏季管理について

### ① 徒長枝整理（結実不良園は過度に実施しない）

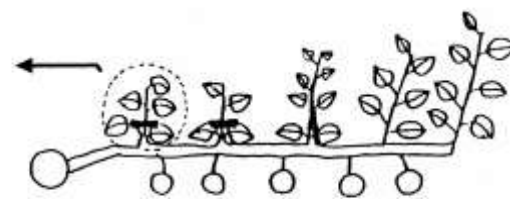
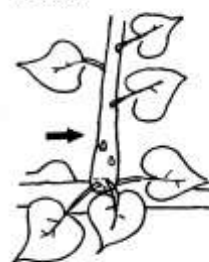
### ② 必要により 1 芽 2 新梢以上の 1 本化整理

### ③ 主枝・側枝候補枝の棚へのくぐらせと 45℃ 誘引

### ④ 摘芯（右図参照）

- 短果枝からの新梢伸長と長果枝となるものに対し実施する。
- 果そう葉 4 枚程度残し摘芯する。（4 芽殺し）
- その後も伸びるので繰り返し摘芯する。

（拡大図）



※ 側枝基部 1/3 部分の背面から発生した新梢を矢印（→）の位置で摘芯する。

～ 南水の結実量が不足している場合の対策 ～ ＊必ずお読みください。

### ◆ 仕上げ摘果の留意点

- ① 総結実量が不足している場合は、素質がハッキリしてから最終的な摘果を行い、素質の極端に悪い果実から優先的に落とし、着果基準に近づける。
- ② 仕上げ摘果時は、果形・果面・果柄の長さ等を上下・左右からよく観察し、変形果やサビの発生程度の著しいものから摘果する。
- ③ 結実量が少ない場合は、樹勢が旺盛になり過ぎないようにするため、果形や肥大の劣る果実でも残しておく。
- ④ 同一樹内でも結実量に差があるため、結実良好な部分に多めにならせる。
- ⑤ 新梢管理は、新梢の発生状況に応じて間引きや誘引等を行う。（あまり早期に実施しない）

# 西洋梨の栽培管理（6月）について



## 1. 仕上げ摘果のポイント

- ◆ 時期：6月20日頃までに終了させる。
- ◆ 落とす果実
  - ① キズ果、変形果、病虫害果（ハマキムシ類・カメムシ類の被害果）
  - ② 小玉果（肥大不良）
  - ③ 着果位置の悪い果実（上向きは落果しやすく、下向きは食味劣るためできるだけ着果させない）
- ◆ 残す果実
  - ① 傷害等ない健全な果実
  - ② 果柄が長く太くしっかりしていて、大きく縦長な果実（台風落果等に強くなる）
  - ③ 果そう葉の多い果実（光合成の促進）
- ◆ 着果基準について
  - ① 目標とする玉サイズ：18玉～24玉
  - ② 樹の樹勢や種入りの有無等によって玉肥大が異なるので、園地の状況に応じて着果量を調整する。
  - ③ 袋掛けの際に再度、見直し摘果を行ない最終着果量とする。
  - ④ 健全樹勢の成木で側枝1本あたり下枝6～8個、上枝4～6個。1樹あたり120～140個を目安とする。（10aあたり、15,000果～17,000果程度）

| 品種           | 1果あたり必要葉数 | 頂芽数      |
|--------------|-----------|----------|
| ラ・フランス等、中玉品種 | 50～60枚    | 4～5頂芽に1果 |
| オーロラ等、大玉品種   | 60～70枚    | 6頂芽に1果   |

## 2. 袋掛け作業について

- ① 6月30日までに極力完了してください。7月初旬に袋掛け一斉点検を実施します。
- ② 輪紋病感染予防のため必ず期間内に袋かけを終了すると共に、薬剤散布も徹底する。
- ③ 袋を掛ける際、果実が直接袋に触れないよう袋の尻をたたきふくらませる。
- ④ 袋は軸とのすき間があかないよう、しっかりと掛ける。

## 3. 夏期管理

- ① 新梢管理
  - ・ 側枝基部からの徒長枝はかきとる。
  - ・ 枝の切り口や上向きの強い新梢は取り除く。
  - ・ 横向きの枝や弱い新梢は、来年の花芽確保のために残す。
- ② 主枝・側枝誘引
  - ・ わい性台樹・・・次年度の花芽着生促進と側枝を太らせないためにも実施しましょう。
  - ・ 普通樹・・・主枝の誘引。オーロラは45度、ラ・フランスは30度に誘引する。
- ③ 枝つり・支柱立て
  - ・ 台風対策として、主幹や側枝をトレリス・支柱に固定する。
  - ・ 普通樹の場合、主枝は先端が下がらないように発生角度を保つ。
  - ・ 結果枝の枝つりや支柱立ては、果実の重みで枝が下垂してくる7月頃から行う。
- ④ 腐らん病対策（梅雨の期間は胞子の飛散が最大になります！）
  - ・ 見つけしだい削り取り処理や切除し、切り口にはトップジンMペーストを塗布する。
- ⑤ 下草管理
  - ・ 特に根元はいつもきれいにする。
  - ・ 除草剤使用基準 ↓  
バスタ液剤（目安：水100～150ℓあたり500ml）